

つくしだより



平成30年3月号

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2018.3.15 第332号

東京つくし会創立五十周年記念

式典・祝賀会を盛会に終えて

都連会長 眞壁 博美

去る2月23日(金)午後、中野サンプラザで開催された式典・祝賀会には、29名の御来賓と、104名の家族会員等のご出席をいただき、盛会となりました。

式典では、私の主催者挨拶後、東京都知事代理として東京都福祉保健局障害者施策推進部障害者医療担当部長・石黒雅浩様、東京都議会議員・尾崎大介様、東京都議会厚生委員会委員長・伊藤こういち様、特別区長 会長・荒川区長・西川太一郎様、全国精神保健福祉会連合会理事長・本條義和様に、温かい励ましのご挨拶を戴きました。また、東京精神神経科診療所協会会長・神山昭男様のお祝辞も披露されました。

御来賓のご紹介後、「東京つくし会50年の軌跡とこれから」と題して、映像を映しながら、前半を野村前会長が、後半を眞壁が話して、都連の歴史を振り返りました。

式典終了後、その場で記念撮影を行いました。大勢なので、御来賓、東西ブロック家族、多摩ブロック家

族と3グループに分かれて、撮影しました。この写真は、記念誌に掲載する予定です。



式典後は、1階下の会場で祝賀会が行われました。川崎副会長の開会挨拶後、東京都社会福祉協議会副会長・横山宏様の乾杯の音頭で食事・歓談が始まりました。食事が一段落した頃から、御来賓の方々にご挨拶頂きました。また、家族会活動に長く関わってこられた3名の方々に司会者がテーブルまでインタビューに

行き、その場で思い出を語って頂きました。

最後は、高田馬場駅の近くにあります「日本福祉教育専門学校」の音楽療法を学ぶ学生さん達による楽器演奏と合唱で場を盛り上げて頂きました。演奏の最後は、「花は咲く」「上を向いて歩こう」の2曲を会場の参加者全員で歌い、フィナーレとなりました。何よりもこれから福祉関係の仕事をしようとしている学生さん達の明るく元気な姿は、私達家族に勇気と希望を与えてくれました。

多くの方々に様々なご支援・ご協力をいただき無事終了できましたこと、改めて御礼申し上げます。

(ご来賓と理事)



式典・祝賀会は、時間にしたら、たった3時間半で、あっという間に過ぎてしまいました。50周年記念行事実行委員会は、3年前の1月から発足させ準備を進めてきました。それは記念誌作成の都合があったからです。東京つくし会の発足当時のことを知る方達がお元気なうちに取材しておかなければ・・・ということ、ご自宅や入院先の病院にインタビューに出かけたり、2年前には座談会を開いて記録を取ってきました。50周年記念誌は、資料としての年表も充実していますし、東京つくし会の昔を知る方のインタビューや、座談会、また長いことつくし会の活動を続けてこられた野村前会長による「東京つくし会のあゆみ」も入り、東京つくし会の歴史を学ぶテキストとしてもふさわしいと思います。

3月31日発行ですので、4月中には、各家族会等に届くと思います。どうぞ、お楽しみに！

五〇周年記念祝賀会に参加して

鬼頭 博子

祝賀会は、社会福祉法人東京都社会福祉協議会副会長横山宏氏の乾杯でスタートしました。この日、会場を埋めつくす参加者の熱気に包まれ、どなたのお顔も満面の笑顔です。



来賓の方達のご挨拶や祝電披露、そしてテーブルを廻っての家族インタビューは、当会のベテラン理事数名が受け持ち、流れるように会場内をリードしてゆきます。

式典で流したつくし会の軌跡スライドも再度流されましたが、なにしろ懐かしい再会の感動に少々興奮気味の参加者達は、お互いの近況を報告し合ったりハグしたりと全身で喜び弾け、とてもとても無邪気に談笑していました。

会場（中野サンプラザ）内は大きな丸テーブルが幾つも並び、まるで結婚式場のよう。両サイドに飾られた色とりどりの料理は和洋アジアンとバラエティーに富み、思わずにっこり。

選ぶ迷いも幸せ感に包まれ、誰もが「美味しいって幸せ♪」を実感。それぞれテーブルは笑い声に包まれ、思いつきり笑って、



美味しいものをいただき、至福のひとつきに感謝です。これできっと私たち全員百周年を楽しく目指せることでしょう。

プログラム最後は日本福祉専門学校で学んだ皆さんのミニライブです。演奏と歌と盛り上がりました。若い彼らは日頃授業の一環として音楽療法を学んでいるそうです。会場に響く全員で歌った「上を向いて歩こう」「花は咲く」、一緒に踊った「恋ダンス」に年がいもなく心震えた感動を忘れることはないでしょう。ご参加くださいました皆様ありがとうございました。つくし裏方仲間たちお疲れさまでした。



みんなねっとフォーラム2017
「地域の中で共に暮らす」

それぞれの立場で出来ること

理事 安藤 万寿代

開会の挨拶は本條義和理事長の言葉で始まり、「ご来賓の御二人からお祝辞を頂いて今年度のフォーラムが開催されました。」

講演「地域の中で共に暮らす」愛南町の取り組みから」講師 長野敏宏氏

愛媛県愛南町の住民ネットワーク作りから、地域に住む・地域を知る・地域とつながる・地域をつなげる・地域と重なる・地域を重ねる・地域に足りない資源を創る・精神科医療を変え続ける・精神障害者を支える活動から、皆と生き抜くための実践へとあり成熟したネットワークへの模索をしています。地域作りと精神科医療の福祉資源作りで、様々な立場の住民が共に参画し地域活性化につながる産業を興したいと未来への「希望」を創り続けています。

「共に」から「皆」と生き抜くへ、と話されました。

午後からシンポジウム&ディスカッションがあり、「それぞれの立場で出来ること」について、所沢市アウトリーチ支援の佐野澄子氏、千葉県・病気があっても地域で暮らせる当事者高橋美久氏、埼玉市・岡田久美子氏(家族)から報告がありました。

当事者の活躍への期待に、精神の病気や障がいがあっても「力」が発揮でき、精神の病気や障がいを経験として役に立つ、地域の中に生活者としての姿が見えることと話されました。分かち合える時間・場所が必要です。

閉会挨拶で松澤勝副理事長が、各家族会で活かして頂きたいと締めくくられました。



練馬区心身障害者福祉手当が予算化される

都連副会長 松沢勝

私共が予てより要望してきた「心身障害者福祉手当」の予算化につき福祉部障害者施策推進課長より内々次の通り話がありました。
今までの経過は、平成28年5月30日にて

提出した陳情書が、実に一年振りの昨年6月15日区議会健康福祉委員会を全会一致で採択されたものです。この間、自民党以下各会派を何回も回り陳情に努めました。

今回は、区議会で陳情が採択されたことを受けて、まず本手当の適用をスタートさせたことの主旨で最低線のスタートを目指すものと言うのが先方の回答でした。

一、 手当の支給対象者は精神障害者福祉手帳一級所持者とする。

二、 支給額は月1万円とし、平成30年8月から4月に遡つてする。

この内容では、手帳一級の143名(平成27年度)だけの対象者に過ぎず、二級1、483名、三級1、255名は取り残されます。そして、月一万は身体三級、知的四度相当である点は、本来の精神の一級の支給額15,500円と比べて筋が通らない点は今後共糺していきます。

今後は、「支給対象者として精神障害者福祉手帳所持者三級までとして頂きたい」という点から要求して参ります。



創立五十周年記念、新春のつどい

世田谷さくら会 理事長 野村武夫

1月30日に世田谷区の行政の関係者、東京つくし会の眞壁会長、本田、植松副会長、また、今迄お世話になりました皆様をお招きして、世田谷区総合福祉センターで創立五十周年式典を行いました。世田谷さくら会は、初代、中村友康会長が創立し、代々の諸先輩に引き継がれ、本年度50年を迎えます。

主な活動は、毎月発行する「さくら会のおしらせ」精神に関連した先生方による講演の「家族教室」高森信子リーダーを中心とした「家族SSTと当事者SST」当事者と家族が参加するゲーム、コーラス等の「さくら教室」毎週月々金曜日に行っている「こころの電話相談」その他が有ります。また、昨年はホームページを刷新しましたので、詳しくは「世田谷さくら会」で検索して下さい。

昨年末、会員より「アウトリーチを是非、作って欲しい」と言う要望が有りました。今、アウトリーチについて勉強中です。原案がまとまり次第、区に「要望書」として、提出する予定です。今後とも、会員のお一人一人の気持ちに寄り添った、家族会活動をしていきたいと思っております。



講演会のお知らせ

- ☆4/7(土) みんなでやろう家族SST 申込不要 参加費無料 主催:サンクラブ多摩 ☎042-371-3380
講師:高森信子氏 会場:多摩市総合福祉センター5階 視聴覚室
- ☆4/14(土) 精神科の診療時間の有効活用を 講師:やきつべの径診療所 精神科医 夏苺郁子氏
会場:新宿区立障害者福祉センター 主催:新宿フレンズ ☎03-3987-9788
- ☆4/21(土) 障害はあってもこの街で暮らしたい～訪問支援で自分らしい生活を
講師:だるまさんクリニック院長 西村 秋生氏 主催:蒼空会 ☎042-493-0210
会場:清瀬市児童センターころぼっくるホール 要予約 参加費無料
- ☆4/28(土) 当事者の力を引き出す支援! 講師:東京ソテリア代表 野口博文氏、家族会 土田ノブ子氏
会場:総合福祉センター3F研修室 主催:世田谷さくら会 ☎03-3308-1679

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。



編集後記

白馬岳に思う事

北アルプスに白馬岳(2932m)という山があります。この山は、白馬村にあります。この村名の読みは「ハクバムラ」と読みますが、白馬岳は「しろうまだけ」と読みます。なぜでしょう?

「雪形」という自然現象があります。「雪形」とは農事歴として、農作業を行う時期の目安にしていたもので、雪に覆われた白い山肌に、雪が解けた山肌が黒く浮かび上がってできる形をいいます。雪形の代表的なものとして五竜岳の武田菱、爺ヶ岳の種まき爺さん、蝶ヶ岳の蝶などのほか白馬岳の代馬があります。この「代馬」は「しろうま」と読んで代掻き馬の事です。これが山肌に現れると田植えの準備に入る時期だと教えてくれたのです。

近年、この白馬「しろうま」岳を村名と同じように白馬「ハクバ」岳と読む風潮が出てきましたが、以上の事からこれは明らかに誤りです。

時代とともに、言葉が変遷していくのはわかりませんが、物事の本質を見失うような変化は断じて許してはなりません。

理事 轡田 英夫

